ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

環境大臣賞　グランプリ

木質バイオマス発電を核としたSDGsへの取り組み

モリショウグループ

〒877-1371 大分県日田市諸留町2813番地22
☎0973-26-0850　http://www.morisho.co.jp/

山林未利用材（間伐材・林地残材等）を活用した木質チップを燃料とするバイオマス発電事業で作られた電気を、市内の全小中学校や公共施設等に供給する「電力の地産地消モデル」を実現しています。発電時に発生する温排水は農業への熱利用として隣接するいちご農家のビニールハウスへ供給しています。また、自社工場に供給する電気は非化石証書の活用により再エネ100%を実現しています。

審査コメント

再生可能エネルギーは脱炭素化に向けた鍵であり、本事業では燃料となる木製チップを海外からの輸入や無計画な伐採に頼るのではなく、地域での間伐材を利用することで、持続可能な取組になっています。まさに「脱炭素チャレンジカップ2021」の環境大臣賞グランプリにふさわしい取組だと思いました。電力の地産地消モデルとして、脱炭素社会を目指して、これからも他地域のお手本となることを期待しています。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞グランプリをいただき、まことにありがとうございます。私たちは、創業時から地域の基幹産業である林業の発展に寄与しながら、資源を有効活用しリサイクルを進めていくことを考えて事業を行ってきました。間伐材や木質系の廃棄物を自ら利用して発電し、地域の公共施設や小中学校に供給することで、CO_2やゴミを削減するだけでなく、地域の皆様に山林の持つエネルギーを実感していただける点を評価していただいたのではないかと思います。今回の受賞で、これまでの取組の方向性に改めて確信が持てましたので、今後もこれまでの取組を更に改善し、子どもたちに素晴らしい自然や環境を引き継げるよう努力してまいります。

ファイナリスト紹介

学生部門

環境大臣賞　金賞（学生部門）

地球と未来を守れ！気候マーチで脱炭素社会を訴えよう！

学校法人誠心学園浜松開誠館中学校高等学校
〒430-0947 静岡県浜松市中区松城町207-2
☎053-456-7111　https://www.facebook.com/kaiseikanseitokikaku/

2019 年 9 月 20 日に世界中で脱炭素社会・地球温暖化対策を訴える「気候マーチ」が行われました。気候危機について学習していた本校生徒が、この活動を広め、より多くの人々に気候危機を知ってもらおうと「気候マーチ」を浜松市内で生徒 400 人規模で行いました。2 回目を同年 12 月に行いました。今年度はコロナ禍の中、オンラインで全校生徒が参加し脱炭素社会や気候危機を訴える動画メッセージを作成しました。

審査コメント

「気候マーチ」自体は直接的な CO_2 排出の削減ではないですが、高校生が問題に対して声をあげていることが素晴らしいと思います。プレゼンテーションでは、特に気候変動への危機感がはっきりと感じられるとともに、皆で前向きに取り組んでいく姿勢が高く評価されました。また、今回の受賞が、多くの次世代の方々にとって脱炭素化に向けた取組のヒントになることを期待しています。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

この度は、環境大臣賞・金賞（学生部門）をいただき誠にありがとうございます。気候マーチを実施したときは、本校に私たちの思いが伝わるだろうかと不安になりました。それでも、2050 年の脱炭素社会実現に向けて、あと 10 年が勝負だと知ってほしくて勇気を出して行動しました。脱炭素チャレンジカップでは、私たちの行動が高く評価されたことをうれしく思っています。特に全体講評では、江守正多審査委員長から「危機を訴えることもとても大切なことだ」というコメントをいただき、私たちがやってきたことは間違っていなかったと確信しました。これを励みにして、浜松開誠館 SDGs 部は今後も活動を続けていきたいと考えています。

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

環境大臣賞　金賞（ジュニア・キッズ部門）

輝く笑顔「みんなでつくるエネルギー教育」

八尾市立曙川小学校
〒581-0028 大阪府八尾市八尾木東2-28
☎072-992-3331　https://www.city.yao.osaka.jp/0000018402.html

人が乗れるソーラカー、ソーラーパネルを活用したゲンジボタルの完全養殖、自転車で発電できるイルミネーション、エネルギーについて楽しんで学べる落語絵本「発電お好み焼き横丁」。「あきらめなければ夢は叶う」を合言葉に、さまざまなプロジェクトに取り組んできました。地球温暖化問題とエネルギー問題は切っても切り離せない問題です。そのエネルギーについて楽しみながら学べるように、地域や保護者と取り組んだ実践です。

審査コメント

「あきらめなければ夢は叶う」を合言葉に、子供たちが主体となってエネルギーに関わる様々なプロジェクトを行い、子供たちが発案したことを地域や保護者が連携しながら実現し進めていることが素晴らしいと思います。また、授業の中でも SDGs について取り組んでおり、今後の展開の広がりに期待しています。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

エネルギー環境教育に地域や団体と協力して取り組みました。ソーラーカーは府立堺工科高校と協力して作りました。ホタルを育てるビオトープの太陽光パネルは地域のお父さんたちが設置してくれました。保護者の協力でつくった自転車発電イルミネーションはコロナ禍で暗かった地域を明るく輝かせてくれました。プロジェクトを進めるにあたり、たくさんの困難な壁がありましたが、子ども、教師、保護者、地域、行政が「あきらめなければ夢は叶う」を合言葉に、力を合わせて達成しました。みんなの力が集まれば、大きな力になることを学んだ子どもたちは、脱炭素社会の実現のために、「あきらめなければ夢は叶う」を信じてこれからも努力を続けます。

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

環境大臣賞　金賞（企業・自治体部門）

究極の CO_2 排出ゼロの低温貯蔵庫「アイスシェルター（氷室）」

株式会社土谷特殊農機具製作所
〒080-2461 北海道帯広市西21条北1丁目3番2号
☎0155-37-2161　http://www.tsuchiyanoki.com

弊社は約 35 年前から氷を使うアイスシェルターの低温貯蔵技術に取り組み、道内 20 棟海外 1 棟の実績と国内外で特許取得している。地域再生可能エネルギーを活用、地域の食材･食品の付加価値を高める技術展開をしており、その中核がアイスシェルターで、CO_2 を排出しない低温貯蔵庫である、自然氷の冷熱エネルギーを、地域の基幹産業である農業に取り入れ融合することで、新しい CO_2 削減の地域産業を生み出すものである。

審査コメント

地域での再生可能エネルギーの活用は今後とても重要であり、化石燃料を利用せず、また多大な電力を消費せずに、長期的に食品を貯蔵できる技術開発は素晴らしいです。そして、アイスシェルターと地域の農業を連携させることで、新しい脱炭素な地域農業を生み出しています。未利用熱エネルギーの技術開発という意味でもさらなる発展に期待しています。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

この度は、脱炭素杯チャレンジカップ 2021 において、環境大臣賞金賞というすばらしい賞をいただき、誠にありがとうございます。寒地の地域資源である冷気を利用したアイスシェルターをご理解いただき、その取り組みを高く評価いただき大変光栄です。アイスシェルター（氷室）は、究極の CO_2 排出ゼロの低温貯蔵庫で、国内のみならず世界の寒冷地で氷を利用し、ランニングストがかからず再生可能な自然エネルギーを使うものです。今回の受賞を糧に、低炭素杯 2015 ファイナリストに選ばれた家畜ふん尿処理施設「バイオガスプラント」とともに、当社の CO_2 削減事業展開に弾みをつけ、脱炭素社会の実現に取り組み、気候変動対策、地球温暖化防止を目指します。

ファイナリスト紹介

市民部門

環境大臣賞　金賞（市民部門）

狭山市内各所で、市民参加のマイタウンソーラー発電所設置！

ＮＰＯ法人さやま環境市民ネットワーク
〒350-1331 埼玉県狭山市新狭山1-13
http://www.sayama-kankyo.org/

当団体は、2010 年度から地域の公益団体が所有する建物に、太陽光市民共同発電所を設置する活動を行っている。市民、企業等から寄付を集め、さらに埼玉県の補助金等を活用し、自治会館に太陽光発電を設置している。現在 4 号機まで設置しており、累計太陽光パネル 19.7kw、年間 11 トンの CO_2 削減を実現している。さらに設置した施設では、定期的に環境教育を行い、地域の環境、防災の拠点づくりを行っている。

審査コメント

脱炭素社会に向けて、市民や様々な団体が協働し、環境まちづくりを推進する取組を実施していることが素晴らしいと思います。太陽光市民共同発電所を設置する活動は、持続可能な循環型社会の構築に寄与することであり、本取組が全国での参考モデルになることを期待します。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

国が脱炭素に大きく舵を切りその動きが活発化しています。私たちはマイタウンソーラー発電所を市内公益施設 4 カ所に 2010 年から設置してきました。そして何よりソーラー発電の必要性や、誰にでもできる省エネ方法を PR し市民に分かり易い形で奨めてきました。一方、近海の水温上昇も進み水蒸気量が増えたことによる集中豪雨も増え、地域の川が氾濫を繰り返すなど温暖化の影響も顕著になってきました。しかしながら、市民の反応は時が過ぎると忘れてしまうことも多いようです。2021 年脱炭素チャレンジカップで環境大臣賞金賞を頂いたことを契機に、私たちは益々期待に応えて行かなければならないと考えております。

ファイナリスト紹介

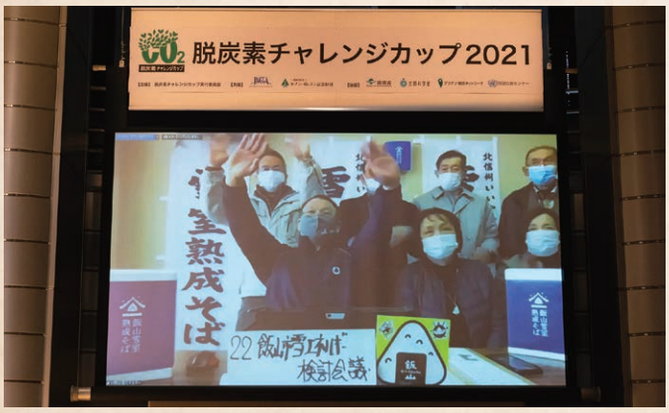
市民部門

文部科学大臣賞　社会活動分野

雪室を利用した地域の特色ある商品開発

飯山市雪エネルギー検討会議
〒389-2292 長野県飯山市大字飯山1110-1
☎0269-62-3111　https://www.city.iiyama.nagano.jp/

「雪室」は一切の電気エネルギーを使用せずに外気が －20℃でも ＋40℃でも年間を通し、1～3℃、湿度 98～100%。エコで特殊な環境の「雪室」を利用し、「熟成雪室そば」を筆頭にお酒や農産物に付加価値を創造し、現地に来なければ味わえない「いいやま雪室御膳（仮称）」をつくり、雪のエネルギーを地域の特産と結びつけ、付加価値を創造し、地域の活性化を図りたい。



審査コメント

雪氷熱エネルギーは、CO_2 を排出しないクリーンな未利用エネルギーとして注目されます。飯山市では、雪室を利用し、農産物等の鮮度保持や糖度増加として、貯蔵することで付加価値が生まれることを実証しました。そこで、飯山市産のそば粉を活用して、「飯山雪室熟成そば」が商品化されたことは素晴らしいです。地域でのエネルギー自給や地域振興に向け、持続可能なビジネス展開が期待されます。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

この度は、脱炭素チャレンジカップにおいて文部科学大臣賞（社会活動分野）という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。当検討会議に属するメンバーや下高井農林高校そば班と共に、環境のこと、地域活性などを学び考えながら取り組んでいたことが評価されたと思うと、今回の受賞を大変ありがたく感謝するとともに、これを励みに今後も活動を広げていきたいと思います。
まずは今回のプレゼンで発表した「真夏のいいやま雪室まつり」の実施に向けてまた走り始めます。開催の折には、夏の信州飯山へ夏でも美味しい「雪室熟成そば」を食べに来て、雪室体験を通して皆さんに脱炭素社会を考えるきっかけにしていただければ幸いです。

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

文部科学大臣賞　学校活動分野

緑丘学園・田中学園「ゼロカーボンにむけた取り組み」

田中学園・緑丘学園　ゼロカーボン委員会
〒310-0913 茨城県水戸市見川町2582-15
☎029-243-0840　http://www.mito-eiko.ed.jp

2014 年から学校敷地と隣接県有地で 50 年前に生息していたホタル再生活動を開始。2018 年に茨城県・セブンーイレブン記念財団と 3 者協定の締結がなされ、休耕田 7ha を里山にする茨城セブンの森がスタート。地域団体と連携して取り組んでいる。更に、日本一のエコ学園を目指した環境 SDGs の実践として、生徒がゼロカーボン委員会を結成してうちエコ診断を広めている。2020 年度は生徒・教員 100 世帯が実施した。

審査コメント

生徒が主体となってゼロカーボン委員会を立ち上げ、うちエコ診断を活用して CO_2 排出を削減する、一体感をもった取組は素晴らしいです。また日頃から、ホタル再生整備活動を行うなど積極的な環境保全活動も行われ、学校活動の域を超えた取組は、地域の担い手を育てる活動となることを期待しています。

審査委員長　江守　正多

受賞者コメント

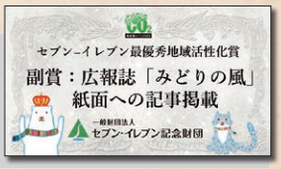
この度は当学園の取り組みに多大なるご評価を賜り、文部科学大臣賞（学校活動分野）という非常に栄誉ある賞をいただきましたこと、大変光栄に存じます。私たちの環境活動は、「英宏の泉 ホタル再生プロジェクト」から出発しました。現在ではその活動の幅を徐々に広げ、世界的な視野から環境保全活動に取り組むべく、独自に「ゼロ・カーボン委員会」を立ち上げるに至りました。啓発活動の一環として行っている「うちエコ診断」をはじめとして、子どもたちへの環境教育とともに、“CO_2 排出ゼロ”を目指した活動を全学園あげて実践しています。これからも様々な活動を通して、脱炭素社会達成へ向けより一層邁進してまいりたいと思います。

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

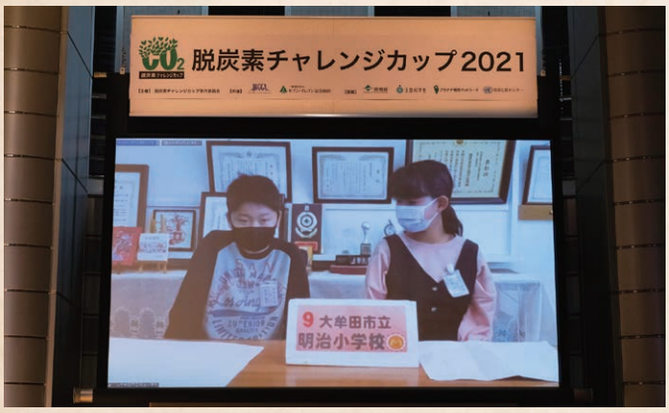
セブン-イレブン記念財団　最優秀地域活性化賞

大牟田ハッピータウンプロジェクト　美しいふるさとを未来へ残そう



大牟田市立明治小学校
〒836-0012 福岡県大牟田市明治町2丁目21番地1
☎0944-53-6017　http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

SDGs の目標 7、項目 11 の達成に向け、エネルギーや自然・環境への関心を深め、「省エネ・省資源」「自然・環境の保持・美化」を実践できる児童を育成するために、各学年の発達段階に応じて様々な取り組みを行っている。「緑のカーテンづくり」「ソーラークッキング」「5 校合同川プロジェクト」等、体験的な活動を通すことで、自分事としてエネルギー環境について課題をとらえ、問題を解決する子供たちの姿が見られる。



審査コメント

小さな身体に無限の可能性を秘めている子供たち。各学年での「環境問題」との触れ合い、学び合いは子供たちと自然環境の距離をぐっと近づけ、これからの時代に必要不可欠な「自ら考え、行動できる力」を育んでいました。そして、その隣には子供たちを信じ過分な手助けをせずにサポートする大人たちがいました。又炭鉱の町として大牟田市の施設を利用したエネルギー学習など、自分の住んでいる町について学び、脱炭素社会について考える機会も地元を大切にする子供たちを育てるという「美しいふるさとを未来に残そう」という取組みであることを評価させていただきました。

一般財団法人セブン - イレブン記念財団　事務局次長　松井　敬司

受賞者コメント

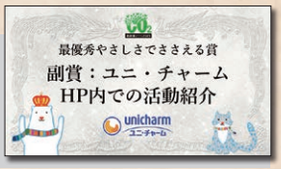
この度は、「セブン - イレブン記念財団最優秀地域活性化賞」に選出頂き、誠にありがとうございました。子供達が学習したことや日頃から取り組んでいることに価値づけて頂いたことを大変うれしく思っています。他団体様の発表も大変興味深く、様々なところで取組が行われていることを知り、大変刺激になりました。今後も、全校のみんなで自分達が取り組んでいることが地球環境保全につながっていることを意識させながら、脱炭素に関する取組を続けていきたいと考えています。

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

ユニ・チャーム最優秀やさしさでささえる賞

使い捨てカイロで水路浄化と森づくりへ



佐賀市立鍋島中学校
〒849-0937 佐賀県佐賀市鍋島一丁目19番1号
☎0952-30-5811　https://www.education.saga.jp/hp/nabeshima-j/

本校は嘉瀬川下流に位置する。本校脇の用水路に使用済みの使い捨てカイロを使った濾過装置を設置して水を浄化する。浄化後のカイロの中身は校内で集めた落ち葉と混ぜて培養土とする。この培養土は、二酸化炭素を吸収する植物の栽培（校内を飾る花苗育成プランターと野菜園、採集した地元の森の幼樹を育成するプランター）に利用する。育てた花苗は地域へ、森の保全に向け育成した幼樹は森へ移植し、間伐材では丸太椅子を作る。

審査コメント

近隣地域から回収した使用済みの使い捨てカイロを活用したろ過装置を学校脇の用水路に設置し、水の浄化に取り組みを実施。さらに浄化装置に使用した後のカイロの中身を、校内で集めた落ち葉と混ぜて腐葉土を作り、校内を飾る花苗や幼樹を育成するプランターに利用。育てた花苗は地域へ配布し、幼樹は地元の森へ移植するなど「脱炭素サイクル」の構築に取り組んできました。佐賀市立鍋島中学校の皆さんの活動は、脱炭素社会実現に貢献し、当社が目指す「共生社会の実現」につながる取り組みの参考モデルに資すると考え「最優秀やさしでささえる賞」に選出しました。また、一連の取り組みを後輩に受け継いでいくという姿勢も「持続可能性」という観点で好事例である点や、当日の熱意に満ちたプレゼンテーションも評価しました。

ユニ・チャーム株式会社 ESG 本部 ESG 推進部 E&S グループ マネージャー代理　関根　透雄

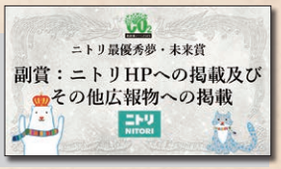
受賞者コメント

今回、リモート開催となりましたが、日本全国各地のファイナリストの皆さんの活動がとても勉強になりました。幸いにも入賞できて、校長先生や全校生徒、職員、みんなで喜んでおります。ありがとうございました。平成の初めから始まったといわれる学校横の水路の掃除活動は、社会的な脱炭素活動や SGDs 運動を取り入れ、ここ数年で、生徒会本部の活動から地域ぐるみの活動へとパワーアップしました。この取組を次代の生徒会を中心に、水の浄化と脱炭素活動を生かした持続可能なまちづくりに向け、地域ぐるみの活動として本校の伝統となるよう、大学や行政機関とも連携をはかりながら、発展させていきたいと考えています。

ファイナリスト紹介

学生部門　ニトリ最優秀夢・未来賞

「脱炭素」で作る被災地オレンジロード



宮城県農業高等学校　農業経営者クラブ
〒981-1242 宮城県名取市高舘吉田字吉合66
☎022-384-2511　https://miyanou.myswan.ed.jp/

地元のみやぎ・東北復興マラソンは全国から２万人が訪れます。このコースに花を植えて全国の人をお出迎えしようと考えました。しかし、被災地の土は、地力がなく花が育ちません。そこで、森林にあった産業廃棄物のスギ樹皮を堆肥化し、コースの土に混ぜると肥料持ち、土質を改善し綺麗な花を咲かせました。産業廃棄物を燃やして処理すれば地球温暖化になりますが、土に混ぜれば資源になり沿岸部は自然豊かになります。

審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取組を通して、夢や希望に満ちた輝かしい未 来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。宮城県農業高等学校農業経営者クラブの取り組みは、森林にあった本来であれば燃やして処分する産業廃棄物のスギ樹皮を堆肥化し、土に混ぜることで土質を改善させ、地力のない被災地で花を咲かせることで東北復興マラソンのコースを綺麗な花で彩る、という地球 にも優しく、そして被災地の皆様にも元気を与える素晴らしい取り組みであったと思います。今後も皆様の活動によって、脱炭素社会を目指すとともに被災地の皆様に元気を与えて くれることを期待しています。

株式会社ニトリホールディングス　代表取締役社長　白井　俊之

受賞者コメント

この度はニトリ様から夢・未来賞をいただき誠にありがとうございます。私たちの学校は東日本大震災で被災し、先輩の代から被災地復興に関わる活動を行ってきました。今回、発表した内容は３年前から行っている花で被災地を彩りたいという思いからスタートしたものです。森林にある木材には沢山の炭素が含まれています。しかし、被災地に赴くと炭素物質は無く、植物を育てようと思っても上手く育ちません。それを解決したのが、脱炭素チャレンジカップで発表した内容でした。初めての発表だったのでとても緊張しましたが、皆様に選んで頂き感謝しかありません。私たちはこの受賞をきっかけに更なる活動に繋げていきたいと思います。ありがとうございました。

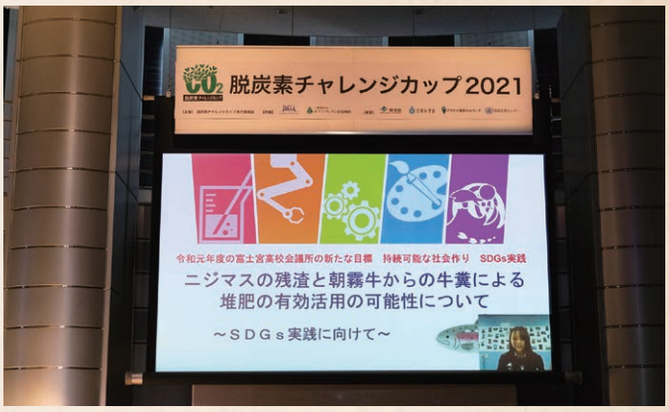
ファイナリスト紹介

学生部門　いのちをつなぐSARAYA賞

マスマス元肥（ゲンピ）を使って富士宮を元気にしよう。

富士宮高校会議所
〒418-0056 静岡県富士宮市西町16-18 西町レトロ館
☎090-5008-5439　https://fujinomiya-hsc.com/

富士宮市は、ニジマス生産量は日本一である。ニジマスの残渣処理について調べたところ沼津へ産廃処理に輸送していることがわかった。（平成 30 年度　全体で 204 トン、廃棄処理代 32,4000 円）このニジマスの残渣を地元で有効活用できれば、炭素排出減、持続可能な社会形成に役立つのではないかと考えた。そこで、同じく地元の特産である朝霧牛の糞尿とコラボして堆肥化できないか検討し成功した。



審査コメント

全国一の生産量を誇る地元特産の養殖ニジマスの残渣を利用するため、製品開発から肥料を活用した農作物育成、それらを活用したコラボメニューの開発までの地域社会を巻き込んだ取り組みは、SDGs の目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」をも盛り込んでおり、各地で取り組むべきモデルケースになると思います。サラヤは社会課題をビジネスで解決することを目指す会社であり、このプロジェクトもニジマスの残渣が産業廃棄物として廃棄しているという課題を解決するためとのことで、今後のさらなる拡がりに注目させていただきます。

サラヤ株式会社 取締役 コミュニケーション本部 本部長　代島　裕世

受賞者コメント

このたび、脱炭素チャレンジカップ 2021 のファイナリストに選ばれたことを感謝しています。さらに、「いのちをつなぐ SARAYA 賞」受賞に驚いています。地域活性化活動を行っている富士宮高校会議所では、一昨年より日本一の養殖量を誇るニジマスの残渣に目をつけ、予算を使って廃棄しているものを地元の朝霧牛の糞尿とコラボして堆肥生産を発案して成功させ、農産物栽培からスィーツ等の作成、SDGs コンテストを企画し、推進し、炭素削減活動、持続可能な社会作りをビジネスの流れを取り入れて推進しています。今回のファイナリスト選出及び賞を頂いたことを励みにさらに SDGs 実践活動を行っていきたいと思います。本当に、貴重な機会を頂きありがとうございました。

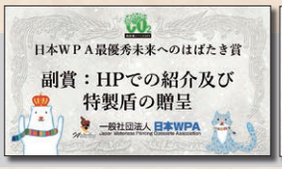
ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

日本WPA最優秀未来へのはばたき賞/マクドナルドオーディエンス賞

「水はどこから」 私たちのできる事を続ける！

せいわエコクラブ
〒543-0031 大阪府大阪市天王寺区石ケ辻町9-17
http://www.j-ecoclub.jp/ecoreport/profile.php?id=214



1995 年発足当時から「大阪の水」について知りたいという気持ちがあり、琵琶湖に親しんできました。2000 年「NPO 法人自然と緑」との出会いがあり、滋賀県比良山系馬ケ瀬の森と触れ合う活動に参加しています。水道水として毎日利用してる水が琵琶湖からやってくることは頭では知っているのですが、水と森とのかかわり、山の手入れと水のかかわりを間伐や下刈りなどから学んでいます。

審査コメント

長年にわたり、継続して水・森を守り、脱炭素活動を推進している。全国の子どもクラブとも協業するとともに、滋賀県の比良山系の森に出かけて、間伐や下草刈り作業をなどを行っています。森に入っての実作業によって、「水と森のかかわり」「山の手入れと水のかかわり」「森の木々が CO_2 を吸収する」などを、肌で感じる素晴らしい取り組みです。間伐材を使用した工作や秘密基地つくりなど、子どもたちの生き生きとした活動が目に浮かんできます。SDGs の「安全な水」「気候変動」「海の豊かさ」「陸の豊かさ」などの各目標にも貢献する活動であり、そして未来へはばたく活動であると評価できます。

一般社団法人日本 WPA　事務局長　小川　勇造

受賞者コメント

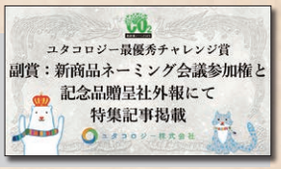
初めて脱炭素チャレンジに参加しました。まさか自分達が賞を受賞するとは思ってもいなくて　とても驚き嬉しかったです。コロナの影響で会場ではなくて、オンライン発表出来たことはいい経験になりました。私の伝えたいことが伝わるか不安だったけれど、発表を見てくれた人から「こんなことをしてるんだね」「すごいね」と感想を聞き伝わっていてよかったと思いました。リモートと生の発表どちらもやってみて思ったのが、やっぱりいつもみたいに人前で発表することはとってもありがたいことだと感じました。そして他の団体の発表を聞いて「自分もやってみたい」「これなら出来るかもしれない」と新しい発見や、凄い事をしてるなと思うと、同時に私達も負けてられない今の活動を頑張り続けようという気持ちがとても強くなりました。

ファイナリスト紹介

学生部門

ユタコロジー最優秀チャレンジ賞

バークを活用した循環型農業への展開



大分県立玖珠美山高等学校　地域産業科 チーム野菜
〒879-4403 大分県玖珠郡玖珠町大字帆足160
☎0973-72-1148　http://kou.oita-ed.jp/kusumiyama/

私たち玖珠美山高校は、地域で排出されるスギ樹皮（バーク）の有効活用と農業用資材への転用を目的として、平成 25 年から継続研究を実施。これまでに特許取得、行政や地域農家との連携も深まり、普及へ向けた取り組みがされてる。またこれまでトマト栽培での実験が主であったが、一昨年度からはイチゴ栽培を実施。また一つ、バークマットの可能性を広げる取り組みが開始された。

審査コメント

木の皮が木材を生成するうえで大量に発生する本来捨てるべき物が加工され、資源となる良い例でした。植物を育てるのに大切な有機微生物を含み土壌改良効果があるバークを使うことで農業を行いながら、土壌の改善もできる一石二鳥で未来を感じました。

ユタコロジー株式会社　CSV 推進室　マネージャー　斎藤　由紀

受賞者コメント

「地域に貢献したい」という想いから始まった本研究も、8年目を終えようとしています。その間、行政・地元農家・企業など、多くの方々の支えにより研究を進めることができました。改めまして、本賞を受賞できたのは、これまで携わったくださった方々のおかげです。ありがとうございます。脱炭素社会に向けた農林業の位置づけは、今後ますます重要な役割を担います。そのような中で、本校の SDGs の取り組みを評価していただいたことはとても光栄です。そして地域産業科では今後も「循環型農業」を目指して、様々な研究に取り組んでいきたいと思います。

ファイナリスト紹介

ジュニア・キッズ部門

SOMPO環境財団　最優秀わくわく未来賞

ユネスコスクール「NISHITA」の挑戦

東京都杉並区立西田小学校
〒167-0051 東京都杉並区荻窪1-38-15
☎03-3392-6828　http://www.suginami-school.ed.jp/nishitashou/

本校では、各学年ごとに SDGs の目標を大きなテーマとして、そこから一人ひとりの児童が課題の解決に向けて挑戦している。２月には「ESD 子供報告会」を行い、これまでに取り組んだ内容を、子供たちが子供や保護者、地域の方に発表している。また、委員会活動では、脱炭素の実現に向け、環境委員会や生活委員会が取り組むなど、学校生活全体を通して、SDGs の達成に向け、積極的に取り組んでいる。

審査コメント

SOMPO 環境財団は「木を植える人を育てる」をモットーに環境人材の育成に取り組む団体です。今年の「わくわく未来賞」では、特に未来の環境保全につながる人材育成に注目して選考しました。杉並区立西田小学校の“ユネスコスクール「NISHITA」の挑戦”では、各学年で毎年新しいテーマを掲げて持続可能な社会づくりに取り組み、「ESD 子供報告会」で保護者や地域にも広く発信する活動が長く継続していること、そして「未来の学校」において子供も大人も同じ目線で地域の未来について語り合い、連携・協働していること等を高く評価しました。今後も自由な発想で、新たな目標にチャレンジし、持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成に取り組まれることを期待しています。

公益財団法人　SOMPO 環境財団　事務局長　佐藤　孝治

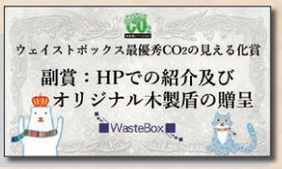
受賞者コメント

この度は最優秀わくわく未来賞をいただき、誠にありがとうございます。これまでの努力や工夫を評価していただけたのだと思い、とてもうれしかったです。積み重ねてきたことが素敵な形で終われたことに、これまで私たちの活動を支えてくれた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。この学校の良さ、6 年間をどう表現したらよいか、仲間とともにとても悩みました。限られた時間の中で何度も話し合いを重ねました。もちろん大変だったし、意見がすれ違うこともありましたが、ずっと楽しかったです。自分たちで1から作り上げることのうれしさを感じています。これからも脱炭素に向け、課題意識をもち、積極的に取り組んでいきたいと思います。

ファイナリスト紹介

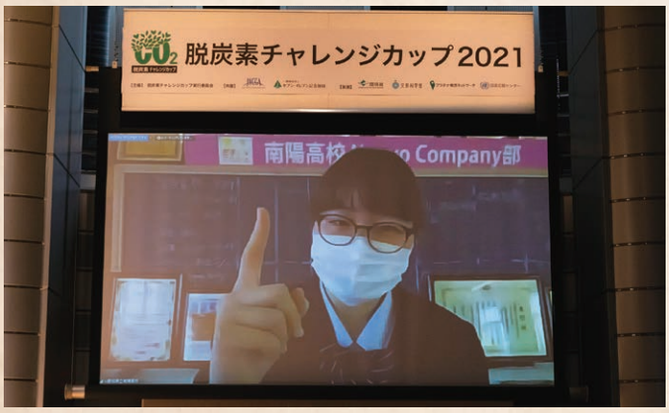
学生部門　ウェイストボックス　最優秀CO_2の見える化賞

食品ロス削減で意識を変えるん脱炭素！



愛知県立南陽高等学校　Nanyo Company部
〒455-0861 愛知県名古屋市港区大西二丁目99番地
☎052-301-1973　http://www.nanyo-h.aichi-c.ed.jp/b-nanyo%20company.html

Nanyo company 部は、環境問題解決に向けて様々な活動を行ってきた。Nanyo Company 部の大人気商品である“やわらかドライりんごくずバー”は、“賞味期限延長技術”を活用しており、環境問題の１つである“食品ロス”を解決することの出来る商品である。このような、環境問題解決のための商品を開発し販売することで、生産者・流通業者・消費者の方々の環境意識の向上に繋げている。



審査コメント

愛知県立南陽高等学校　Nanyo Company 部のみなさま、受賞おめでとうございます！規格外品を使用して開発された「やわらかドライりんご」も食品ロスを考えて作られた製品ですが、賞味期限が来ることで廃棄されてしまうという新たな問題に目を向け、“賞味期限延長技術”により「やわらかドライりんごくずバー」として生まれ変わらせるという取組は持続可能な社会にも繋がる素晴らしい取組だと思います。世界的にも問題になっている「食品ロス」に着目し、身近なところから生産者・流通業者・消費者の環境意識向上に繋げており、加えて自分たち自身の活動を振り返ることでさらに課題を見つけ次の行動に繋げる、その姿勢を今後も大事にしてほしいと思います。

株式会社ウェイストボックス　代表取締役　鈴木　修一郎

受賞者コメント

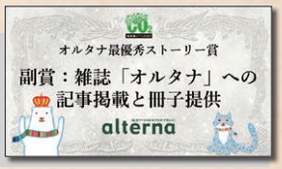
私達 Nanyo Company 部は、商品の製造・企画・販売・経理を通してフェアトレード、カーボンオフセット、COOL CHOICE の三つの制度を活用しながら地域貢献を目的として活動を行ってきました。コロナ禍で様々なイベントが中止になり、私たちの活動の一つである販売活動が出来なくなり、その時販売予定だった商品の期限がきてしまうなど、商品を廃棄しなければならない状況に陥ってしまいました。その状況をチャンスととらえ、環境配慮型商品と別の食品を組み合わせ、賞味期限延長技術を用いることで新しい商品を開発することが出来ました。こうした活動を評価して頂き、「ウェイストボックス最優秀 CO_2 の見える化賞」に選出して下さり、ありがとうございます。これからも脱炭素社会の実現に向けて、この賞に応えられるよう頑張っていきます！

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

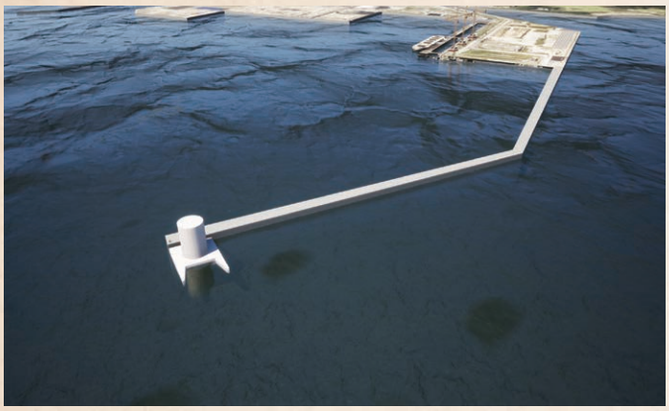
オルタナ最優秀ストーリー賞

日本発・世界初の波力発電技術、「循環型波力揚水発電」の紹介



株式会社音力発電
〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台1-1-6
☎0466-53-8788　http://www.soundpower.co.jp/work/wave.html

これまでの不可能とされてきた海の波を使用した「波力発電」分野においての「三大課題（台風等高波対策、海洋生物対策、漁協との兼合い）」を一気に解決する、日本初・世界初のこれまでにない全く新しい弊社の特許技術。現在、本研究開発は、昨年度からNEDO様の国プロに採用された他、本年度から総務省様と国土交通省様からも受託研究を頂いており「同時に3つの国プロ」を実施中。（※各省庁様からも注目されている。）



審査コメント

株式会社音力発電の速水浩平代表取締役は、2006年ごろから、慶應義塾大学SFC発ベンチャー企業として、「発電床」などユニークな事業開発に取り組んでいました。そのころから速水氏の活動には注目していました。その理由は、こうした「どこにでもあるエネルギー」の活用は、ともすれば大量消費・中央集権的な構造になりがちなエネルギー利用を、地域や市民の手に取り戻すことにもつながるからです。今回、これまで不可能とされてきた、海の波を使用した「波力発電」（循環型波力揚水発電）に取り組んでおられることを知り、オルタナ賞（最優秀ストーリー賞）を差し上げた次第です。私自身、技術的なことは理解できていないのですが、事業の可能性を感じています。今後のご健闘を期待しています。

株式会社オルタナ　代表取締役　編集長　森　摂

受賞者コメント

今回「オルタナ最優秀ストーリー賞」を頂けましたこと、大変ありがたく思っております。また、副賞として「雑誌「オルタナ」への記事掲載と冊子提供」を行って頂けるとのことで、感謝しております。こちらにつきましても「循環型波力揚水発電」のアピールを行わせて頂くことにもつながりますため、とても良い賞を受賞できたと思っております。日本は、世界有数の海洋国家となります。そして、以前より世界的に見ると「波力発電」は、安定的な再生可能エネルギーとして注目されております。「海の波」を日本の「純国産エネルギー」として捉え「波力発電」を普及させることにより、「安定的な再生可能エネルギー」の供給を実現出来ると思います。我々は、引き続き「波力発電の研究開発」と「普及促進」の実現を目指して活動して参ます。引き続きお力添えを頂けたらと思っております。

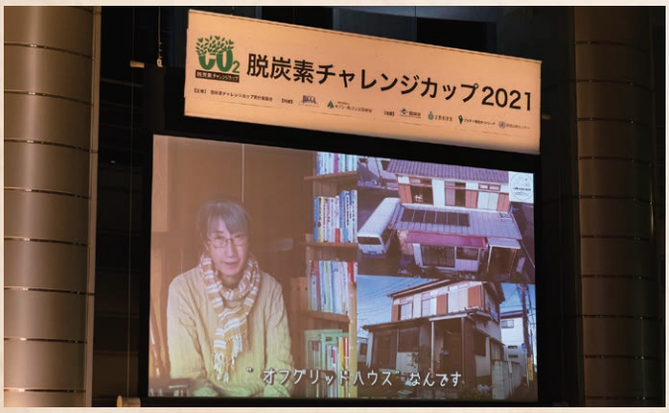
ファイナリスト紹介

市民部門　気象キャスターネットワーク　最優秀市民･学校エコ活動賞

民家を改造！オフグリッドハウス「松江の家」

NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ
〒132-0033 東京都江戸川区東小松川3-35-13-204
☎03-3654-9188　https://www.sokuon-net.org

本活動は、家人の転居により無人となり、電力会社と通電していない戸建て住宅を、子どもの権利に関する活動を行っている市民団体が活動拠点として利用するに当たり、照明等、活動に必要な電力を提供するため、太陽光発電パネルと鉛バッテリーを持ち込み、電気を利用できるように施工し、オフグリッドハウス「松江の家」と名づけ、2015 年より運用している。施工費は約 50 万円である。



審査コメント

「オフグリッドハウス松江の家」は、私たち一般市民が脱炭素社会を実現するモデルケースです。一見、誰にでも出来そうですが、言うは易し行うは難し、なかなか実現できない意識の高い取り組みです。身近なお手本として、ぜひ多くの方に取り組みを知っていただき、活動の輪が広がっていくことを期待しています。

特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク 理事長　南　利幸

受賞者コメント

このような賞をいただき大変うれしく思います。コロナ禍で対外的な活動が一切できなくなり、私たちの活動を発信したいとの思いからの応募でした。実は昨年、「令和２年度気候変動アクション環境大臣表彰」を受けていたので、受賞することは無いと思っていました。今回の受賞は、1997 年の結成以来、気候変動問題に対して、東京・江戸川区という地域で市民が主体的に取り組むことのできる活動を続けてきたことそれ自体に対するものと考えており、これまで活動に関わってきた方々全員の力によるものと思う次第です。ぜひ、松江の家を見に江戸川へ来てください。お待ちしております。

ファイナリスト紹介

学生部門　マクドナルドオーディエンス賞

人と自然の豊かな関係をきづく脱炭素社会実現に向けて

ソフトエネルギー研究ユニット
〒656-0012 兵庫県洲本市宇山2-8-65
☎0799-22-1240　http://www.hyogo-c.ed/~sumoto-ihs/01_information/01_seitonoayumi.html

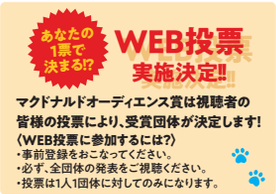
淡路島は、平成 23 年 12 月あわじ環境未来島特区に指定を受けた。本ユニットは、脱炭素社会実現のために市民の省エネ意識や環境保全意識向上を目的とした活動を行ってきた。環境負荷の小さいソフトエネルギー研究の成果を基として、近隣地域住民にも協力いただき、風車街路灯や水車街路灯の設置、さらには東北絆ボランティア活動にも参加し、石巻市や陸前高田市自治会との協働により風車街路灯の設置も実現させてきた。

受賞者コメント

脱炭素化社会にむけた専門高校らしい取り組みとして、10 数年来ソフトエネルギーの性能改善の取り組みを行ってきました。最初は小水力利用技術、次には風力発電技術、ソーラ光技術、ソーラ熱技術、圧電技術、氷雪利用技術などソフトエネルギーに関わる技術で試作実験を繰り返し、関連学会でも発表してきました。さらに、ボランティア活動として得られた知見を活用してきました。今回は、コロナ感染症拡大という新たな問題を抱えるに至りました。脱炭素を念頭に人々の諸活動を少しでも応援するために、省エネフェイスシールドを 3D プリンタで製作し、福祉施設、求職センタ、イベント会場にも提供してきました。元気に活動している私たちをご覧いただけてうれしく思います。

審査方法

今回のプログラムは、全てオンライン (WEB 上) でのリアルタイム配信となり、オーディエンス賞も WEB にて投票をして頂きました。当日は 225 名の WEB 投票の結果、上位 2 団体が「オーディエンス賞」として決定いたしました。



WEB投票結果　ランキング！

順位	団　体　名　称	所在地
1	ソフトエネルギー研究ユニット	兵庫県
2	せいわエコクラブ	大阪府
3	八尾市曙川小学校	大阪府
4	NPO 法人さやま環境市民ネットワーク	埼玉県
5	あおぞら学童保育クラブ	愛知県

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門

審査委員特別賞

バイオマスエネルギーの活用による CO_2 ゼロへの挑戦

北越コーポレーション株式会社　関東工場勝田工務部
〒312-0062 茨城県ひたちなか市高場1760　☎029-275-5500　http://www.hokuetsucorp.com/

北越コーポレーションでは、事業活動に伴って自然環境へ与える影響を最小限にする「ミニマム・インパクト」の考え方を環境の基本理念としています。当工場では、木質燃料や紙をつくる工程で排出されるペーパースラッジを主燃料とするバイオマス発電ボイラーの導入により、CO_2 排出量を導入前に比べて約 55,000t（約 56%）削減し、再生可能エネルギー（Renewable Energy）比率 83%を達成しました。

審査コメント

2050 年までに CO_2 排出実質ゼロを宣言された社のなかでもけん引役となる関東工場の取組です。利用効率を高めた結果、再生可能エネルギー比率 83%に達していることは素晴らしい実績で、社内はもとより住宅地と近い工場の性質から地域の住民にも説明されている波及力も大きく評価されました。これからも業界・地域と共に脱炭素を推進していかれることを期待しています。

審査副委員長　尾山　優子

受賞者コメント

審査員の皆様方には、北越コーポレーション（株）勝田工務部の【脱炭素】への取り組みを高く評価して頂き、大変嬉しく思っております。また今回、このプレゼンの機会を与えて下さいました茨城県環境管理協会の皆様方、プレゼンを温かくサポートしてくださいました司会者の方や事務局の皆様にも感謝申し上げます。私達の「紙づくり」は環境に優しい「植林木チップ」と「古紙」を原料とし、生産に必要なエネルギーの【脱炭素比 90%】を既に達成しております。残り 10%のゼロカーボンへの取組も 2021 年よりスタートさせています。【地球温暖化防止】への更なる取り組みを、地域の方々と共に進めて参ります。この度は本当にありがとうございました。

学生部門

優秀賞

クリエイティブクッキングバトルオンライン KAWA

クリエイティブクッキングバトルオンラインKAWA 実行委員会
〒194-0003 東京都町田市小川2-34-16　https://ccb-kawa.cookpad.jp/#ccb

オンラインで家族や友達と2～4人のチームを組み、野菜や果物の皮、保存食、地域食材などの食材を使って、いかに無駄なく、斬新でクリエイティブな料理ができるかを競う、動画応募型コンテストです。調理過程を3分以内の動画にまとめ、400字のPR文章とともに応募してもらい、無駄のない工夫・料理アイデアの新しさ・見た目の美しさ・動画の楽しさをポイント化し、全ての合計点を競います。

ファイナリスト紹介

学生部門　優秀賞

資源循環型肥料の開発で地球を救う、環境社会イノベーション！

緑のリサイクルソーシャルエコプロジェクトチーム
〒774-0045 徳島県阿南市宝田町今市中新開10-6
☎0884-22-1408　https://www.youtube.com/watch?v=g7blEBuLtlQ

私達は、道路や河川・公園等の維持管理で発生する「刈草」から資源循環脱炭素社会の構築に向けて資源循環型肥料「もったいない２号」を開発した。さらに、「もったいない2号」は全国で初めて高校生の団体として徳島県からエコ商品の認定を受け、生産に向けた模擬会社「バイオマス工房・未来」を立ち上げ、４名の地域雇用を創出した。東日本大震災への防災復興支援活動や東京 2020 五輪パラリンピックの暑熱対策に取り組んでいる。

市民部門　優秀賞

未来の子ども達と元気な森林づくりで脱炭素

森の守り人
〒310-0827 茨城県水戸市吉沼町1797-6
https://kirameki-ibaraki.com/about/mito/

自然に親しむことが少なくなった今、地域の手入れされていない人工林を整備する機会もなくなり、荒廃した森が増えています。茨城は首都圏に近いことから農水は発展していますが、林は置き去りになってしまいました。そこで、未来のこどもたちを巻き込み、楽しく活動ができるか?と考えた結果、皮むき間伐方にたどりつきました。陶芸の里「笠間」ではじまった持続可能な森の脱炭素を提案します。

ファイナリスト紹介

市民部門　優秀賞

あおぞら学童保育クラブ木造施設建設プロジェクト

あおぞら学童保育クラブ
〒458-0815 愛知県名古屋市緑区徳重一丁目1108番地
☎052-876-9463　http://aozoragakudo.org

プレハブ施設だった学童保育所の建物を木造の建物に建て替えたプロジェクトです。また建て替えに合わせて、保育に木育の観点を入れ、子どもたちが木に親しみ、自然な形で持続可能な社会への関心を育てる取り組みです。名古屋市内の学童保育所のほとんどは、名古屋市から貸与されるプレハブで保育が行われています。プレハブの住環境は必ずしも良いとは言えず、環境改善とともに学童保育に新たな保育視点を導入する試みです。

市民部門　優秀賞

循環型社会に向けた福祉農園プロジェクト

株式会社パスポート　社会福祉法人はぐるまの会
〒216-0011 神奈川県川崎市宮前区犬蔵一丁目23番13
☎044-975-4800(代)　https://www.passport-net.co.jp/

運営店舗の一つである「業務スーパー宮前店」で、日々排出される野菜くずを「生ごみ処理機」に投入。生ごみ処理機内で一次発酵したものを「社会福祉法人はぐるまの会」の障がい者の皆様に回収を依頼。はぐるまの会が運営する「はぐるま農園」の堆肥場で二次発酵した後、農園の堆肥として使用しています。農園で収穫された野菜は、堆肥の原料となった野菜くず排出場所の業務スーパー宮前店に納品され、地域のお客様に販売されています。

ファイナリスト紹介

市民部門　優秀賞

自動車の廃材を活用したバリアフリービーチの構築

ドリームやまがた里山プロジェクト

〒990-0031 山形県山形市十日町3-9-36
☎023-666-6967　https://www.dysp.org

焼却処分する廃車のガラス・バンパーを再利用し、コンクリートに混合、障がい者と健常者が共に楽しめる海水浴場構築のため、車イス用大型スロープの建設を実施した。混合する上で安全性を確保するため、県工業技術センター協力のもと、圧縮強度試験も実施し、結果クリアした。施工は地元自治会、県港湾事務所等の協力で鶴岡市鼠ヶ関海水浴場に建設。廃車 270 台分のガラス、100 台分のバンパー計 28t の産廃物削減。

企業・自治体部門　優秀賞

この美しい日本の自然と、未来の子供たちの笑顔を守るためには

～ひこねの金物や～株式会社ニシダ

〒522-0024 滋賀県彦根市正法寺町53-26
☎0749-26-0297　https://www.woodfiber.jp/

国産の間伐材で作られた断熱材『ウッドファイバー』を地域の工務店が、地域の住まいに、地域の職人さんが施工するという、地域の経済を循環させながら環境保全できる『四方よしの活動』です。森林の有効活用は、近年衰退している林業を活性化し森を守り、育てることで温暖化防止効果も期待できます。豊かで美しい社会と子供たちの笑顔を次世代に残すための永続的発展プロジェクトです。

ファイナリスト紹介

企業・自治体部門　優秀賞

とみやからはじまる未来のくらし　～脱炭素×水素エネルギー～

宮城県富谷市

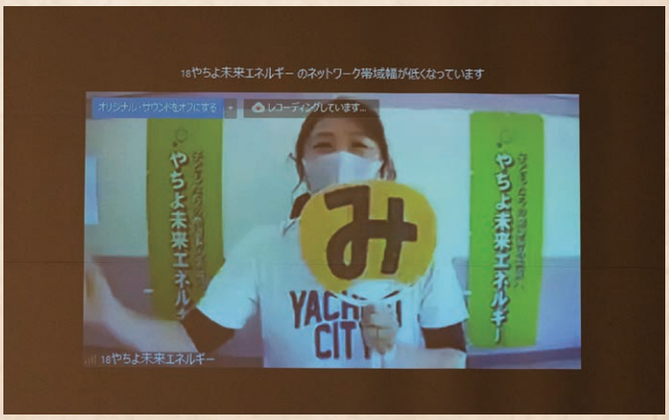
〒981-3392 宮城県富谷市富谷坂松田30番地
☎022-358-0517　https://www.tomiya-city.miyagi.jp/

平成 29 年度環境省事業　「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の採択を受け、㈱日立製作所、丸紅㈱、みやぎ生活協同組合と富谷市の 4 者共同で、脱炭素社会を目指した一般家庭での低炭素水素利用に向けた、サプライチェーン構築の取組を実施している。本事業に伴走するため、本市では低炭素水素プロジェクトを立ち上げ、公共施設に純水素燃料電池を設置し、脱炭素社会推進を進めていくための各種啓発事業を実施しています。

企業・自治体部門　優秀賞

コドモミライプロジェクト

一般社団法人やちよ未来エネルギー

〒276-0032 千葉県八千代市八千代台東1-17-5　八千代アートスクール1F
☎050-5328-4767　https://yachiyomirai.com/

私たちは「地域のみんなで創る自然エネルギー社会を子どもたちの未来へ」の想いを込めて、「コドモミライプロジェクト」として市民の皆さんとともに (1) 市民発電所プロジェクト (2) パワーシフトプロジェクト (3) エコ教育プロジェクト (4) ベランダ発電プロジェクト (5) 子ども守るプロジェクトの5つのプロジェクトに取り組んでいます。